

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-540	22-306	慶應義塾大学 加藤眞三
題名 (原題/訳)		
Nutrition as Therapy in Liver Disease. 肝疾患における治療としての栄養。		
執筆者		
Shah ND, Barritt AS 4th.		
掲載誌		
Clin Ther. 2022 May;44(5):682-696. doi: 10.1016		
キーワード		PMID
慢性肝疾患、肝硬変章、栄養		35643886
要 旨		
<p>目的：慢性肝疾患患者の日常臨床において、栄養の重要性が十分に認識されていないことが多い。栄養療法は、アルコール関連肝疾患および非アルコール性脂肪性肝疾患の管理において重要な役割を果たしている。あらゆる病因による肝硬変患者では、栄養不良およびサルコペニアが死亡率に直接関係しており、栄養介入はこれらの患者の管理において重要な役割を果たしている。この総説では、すべての慢性肝疾患にわたる補助療法としての栄養介入の役割を探る。</p>		
<p>方法：慢性肝疾患のケアにおける栄養的側面について PubMed を検索して、叙述的で定性的な系統的レビューを実施した。</p>		
<p>結果：栄養療法は慢性肝疾患の管理において重要な役割を果たしている。非アルコール性脂肪性肝疾患では、特定の多量栄養素を管理することで体重が減少し、転帰が改善する。アルコール関連肝疾患、慢性胆汁うっ滞性肝疾患、および肝硬変の患者では、カロリーとタンパク質の摂取が転帰を改善する上で重要な役割を果たす。これらの患者では微量栄養素の欠乏もよくみられ、栄養不良による他の合併症を予防するために補給が必要である。栄養の評価および管理は、慢性肝疾患患者の典型的なケアプランに付随すべきである。</p>		
<p>意義：慢性肝疾患における栄養療法に関するこの総説では、すべての慢性肝疾患の範囲にわたる栄養素および微量栄養素の管理について、エビデンスに基づく現在の推奨事項および社会的推奨事項を強調している。</p>		